

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2341号 2017年01月10日（火曜日）

## 《 continued Trump theater ? 》

世界の金融市場は「トランプ囃し・期待」一色から、「トランプ経済政策の検証、またはそれへの疑念」へとムードを変えつつある。それははいよいよ就任が近づいているからで、今週は 11 日に昨年 6 月以来という同次期大統領の正式な記者会見が予定されている。「ツイッター以外に何を語るのか」「様々な問題に彼がどう答えるのか」に関して関心が高い。マーケットは全体的に警戒ムードが高く、こうした中で上げが続いたニューヨークの株式市場はダウで見て 20000 ドルを目前に今週月曜日の取引でも足踏みしている。もっとも Nasdaq は史上最高値を更新しており、ニューヨーク株式市場の「強気ムード」が完全に消えたわけでは無い。

株価以上に先行きに警戒感を強めているのは為替市場で、例えばドル・円相場を見ると 120 円の節目から寧ろ遠ざかる動きさえ見られる。アメリカの金利の先行きに関して「利上げ加速」の観測がある中で「トランプ次期大統領が、恐らく持論であるドル安論をいつ持ち出すか分からない」との見方があるためだと思われる。もっとも個々の動きは顕著で、この週末を挟んでポンドがドルなどに対して急落した。メイ政権が EU の単一市場からの「明確な離脱」の方針を表明したことが大きい。

11 日の正式記者会見を前にトランプ陣営は一つの重要な発表を、日本時間の 10 日朝方にした。それはトランプ次期大統領の長女であるイバンカさんの夫であるジャレッド・クシュナー氏（今日 36 歳に トランプ氏とは同業のニューヨークの不動産業者 マンハッタンのトランプタワーの直ぐ近くに大きなビルを保有）をホワイトハウスのシニア・アドバイザー（上席補佐官）の一人に加えると発表した。陣営の発表によると、「クシュナー氏のホワイトハウス入りは 1967 年制定の Anti-Nepotism Law（縁故採用禁止法）の対象外」との判断に基づくもの。「閣僚などについては同法が適用されるが、ホワイトハウスでは同法は適用されない」との法的見解に基づく、と説明した。

同法は 1960 年に JF ケネディ大統領が弟のロバート・ケネディを司法長官に任命したことなどへの反省から制定されたと言われ、大統領が身内を閣僚に任命するのはそれ以来生じていない。恐らくトランプ流の法律解釈（クシュナー氏のホワイトハウス入り）に関しては、11 日の記者会見の場でもそうだし、今後の議会でも大きな議論を呼ぶだろう。「次期トランプ政権ではクシュナー氏の役割は大きくなる」との見方が従来から強かったが、こ

の人事でそれが一層明確になった形だ。同氏は選挙戦でもトランプ氏の身近にいて、彼の選挙戦をかなりコントロールしたと言われるし、陣営からクリス・クリスティー（ニュージャージー州知事）を追い払ったのもクシュナー氏だと言われる。彼の父親はクリスティー知事の過去の判断も手伝って今は脱税がらみで服役中である。

中国事業をしているクシュナー氏もそうだが、今週はトランプ氏が選んできた主要閣僚の何人かに関して、議会の承認手続きが始まる。「その過去の言動から見て適任かどうか」「利益相反がないかどうか」の審議だ。国務長官に指名されているティラーソン氏（プーチン露大統領と極めて親しい）を初めとして、何人か閣僚候補の議会承認に関しては「疑義が提起される」との見方が強い。加えて4000人とも言われる政府高官（次官、次官補などなど）の指名も進捗具合は遅いと言われており、その意味では20日に迫った就任式にもかわらず、「トランプ次期政権はフル稼働」とはしばらくはいきそうもない。閣僚氏名でもまだ「農務」と「ベテランズ」が空席である。

しかし今週は去年や今年これまでよりも遙かに「トランプ政権の形・姿」が明確になるはずで、マーケットはそれを固唾を呑んで見守っていると言える。10日にはオバマ大統領の「サヨナラ会見」があり、それで実質的にはオバマ政権は終わる。その後は誰がどう見ても「トランプ政権」しかないわけで、彼がどのくらいの大統領にいられるかは別にして（任期途中で弾劾の可能性があるので）、アメリカの政治や経済政策は彼が最終的には決めることになる。

相当騒々しい政権になることは明確である。就任式を控えているのに、自分のテレビ番組の後任になったアーノルド・シュワルツェネッガーに対して「視聴率が悪い」と毒づいてみたり、芸能界の授賞式でメリル・ストリープが名指しせずにトランプ次期大統領を暗に批判したら、名指しで「過大評価の女優」と言い放ってみたり。相変わらず個々の企業の名前挙げて、「アメリカで生産しろ、労働者を雇用しろ」と吠えている。トヨタがその標的になったことは既によく知られている。

### 《 2017 Committee Members 》

アメリカ経済の形は比較的良い。「トランプが当選してから株価が上がった」のは確かだが、アメリカ経済の形が比較的良いのはこれまで8年間政権運営をしてきたオバマ大統領の成果とも言えるものだ。むろん民間企業の努力が大きいにせよ、オバマ政権、それにFRBの政策成果も多い。

そういう意味ではトランプ政権は「高い発射台」からスタートする。失業率は最近二ヶ月は4.6%とか4.7%となっており、これは「アメリカの実質的完全失業率」と言われるレベルだ。これからさらに率を下げるのは至難の技だと考えられる。成長率も既に昨年第三・四半期で年率3.5%（確定値）になっており、12月の米雇用統計では賃金の伸び率が7年半ぶりの高い水準になっている。

こうした点から見れば、先のFOMCで「今年一年で3回の利上げ」と予想されたペースは

加速してもおかしくない。しかし分からないのはトランプ政権が選挙中言ってきた「規制緩和」と「インフラ投資」をどのように進め、その規模がどうなるかが不明な点だ。閣僚も決まらない今の段階では何とも言いようがないが、そのいくつかについて今週はヒントが出てくる。

もっともトランプ政権を離れて FOMC メンバーの交代を見ると、違う図式も見える。今朝の日経によれば 10 人いた 16 年の投票メンバーのうち、ジョージ・カンザスシティ連銀総裁、メスター・クリーブランド連銀総裁、ブラード・セントルイス連銀総裁、ローゼングレン・ボストン連銀総裁が抜け、17 年はハーカー・フィラデルフィア連銀総裁、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、カプラン・ダラス連銀総裁、エバンズ・シカゴ連銀総裁となる。

FRB の HP は依然として 16 年のメンバーを掲載しているが、これが変わる。16 年の 4 人のうちジョージ、メスター、ローゼングレンの 3 氏は早期利上げを求めた「タカ派」だった。新たに加わる 4 人のうちハーカー氏はタカ派色が残るが、エバンズ氏はこれまでの発言から利上げに慎重な「ハト派」として知られ、残る 2 人は中間派と見られる。16 年に比べて慎重派の意見が強まる可能性があるわけだ。FOMC 理事二人の空席がどう埋まるかも注目だ。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 0 1 月 0 9 日 (月曜日) | 豪 11 月住宅着工許可件数<br>ユーロ圏 11 月失業率  |
| 0 1 月 1 0 日 (火曜日) | 米 11 月消費者信用残高<br>豪 11 月小売売上高<br>中国 12 月消費者物価・卸売物価<br>12 月消費動向調査<br>米 11 月卸売売上高                                  |
| 0 1 月 1 1 日 (水曜日) | 11 月外貨準備高<br>12 月輸入車販売<br>12 月新車販売ランキング<br>11 月景気動向指数   |
| 0 1 月 1 2 日 (木曜日) | 11 月国際収支<br>12 月貸出・預金動向<br>12 月上中旬貿易統計<br>12 月都心オフィス空室率<br>12 月景気ウォッチャー調査<br>ユーロ圏 11 月鉱工業生産<br>独 2016 年 GDP 速報値 |

0 1 月 1 3 日 (金曜日)

米 12 月輸出入物価指数  
米 12 月財政収支  
12 月マネーストック  
12 月企業倒産  
米 12 月小売売上高  
米 12 月卸売物価  
米 11 月企業在庫  
米 1 月ミシガン大学消費者態度指数速報値

《 have a nice week 》

またまたの連休。いかがお過ごしでしたか。珍しく雨が降った日がありましたが、全体的には良い天気が続いている今年の冬。乾燥が続いているので、お体にはお気を付け下さい。夜明けが早くなり昼間の時間は長くなりますが、寒くなるのはこれからです。

- - - - -

ところで最近またまた「身近なものも油断していると進化する」と感じました。今回は年末年始に乗った飛行機。乗ったら離陸前に寝てしまう私ですが、今回はケアンズ行きで、日中のフライトだった。しかも時間は7時間もあったことから、座席周りを結構しっかりチェックする時間がありました。そして「とっても進化しているな」と思った。まず窓側の座席に座ってふと気がついた。窓にシェード(ブラインドとも呼べる)がない。着陸するとき「皆さん、窓を開けて下さい」とよく言われるあれです。しかしそもそも開けるものがない。

よくよく見ると、窓の下に半月形のちっちゃな操作盤があって、その上半分を押すと窓がゆっくり明るくなり(外光を取り入れる)、下半分を押すとゆっくり暗くなる。ちょっともどかしいが、なかなか良く出来ている。サイトを見たら、GENTEX社の開発したジェル状のエレクトロクロミック材料を用いた航空機用電子カーテンシステムという説明があった。このようなシステムは、航空機だけでなく、例えば車などにそのうち導入できるのではないのでしょうか。家でも。

「多分離着陸の時にはコックピットで飛行機の窓全部の操作が可能なんだろう」と思ったら、着陸するとき「窓は全部クリアにします」とアナウンスがあった。乗客は何もしなくて良い。なるほどね。で調べたのです。そしたら「有機化学あれこれ」というサイトがあった。分かったのは乗った飛行機が「ボーイング 787-8 ドリームライナー」だったこと。

フライトに使ったのはオーストラリアに強いジェットスターでした。つまり格安航空会社。それが面白かった。映画を見るのも10豪ドル。なんでもマネー。キャビン・アテンダントにでも支払うのかと思ったら、スクリーンの下にスレッドがあってそこに使えるクレジットカード(VISA、マスターなど)の上部を入れてスワイプすればok。なかなか効率的に出来ている。

驚いたのは「SeatChat」という機能が付いていたこと。むろん両方が設定でokを出さないといけないのですが、機内の座席間（離れていても）でチャットが可能という機能。席が離れてしまっても「一緒にいる感じ」が持てる、というわけです。

まだまだいろいろこれからも「身近なものの変化」が我々を驚かす時代が続きそうです。それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》